PICTET 1805

交付運用報告書

第10期末(2026年４月13日)	
基準価額	28,103円
純資産総額	1,535百万円
第10期	
騰落率	62.6%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

iTrustバイオ

追加型投信／内外／株式

第10期(決算日2026年４月13日)

作成対象期間：2025年４月15日～2026年４月13日

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記の弊社ホームページを開き「ファンド」より当ファンドの名称を選択いただき、さらに「運用報告書（全体版）」を選択いただきますと運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
○書面での運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

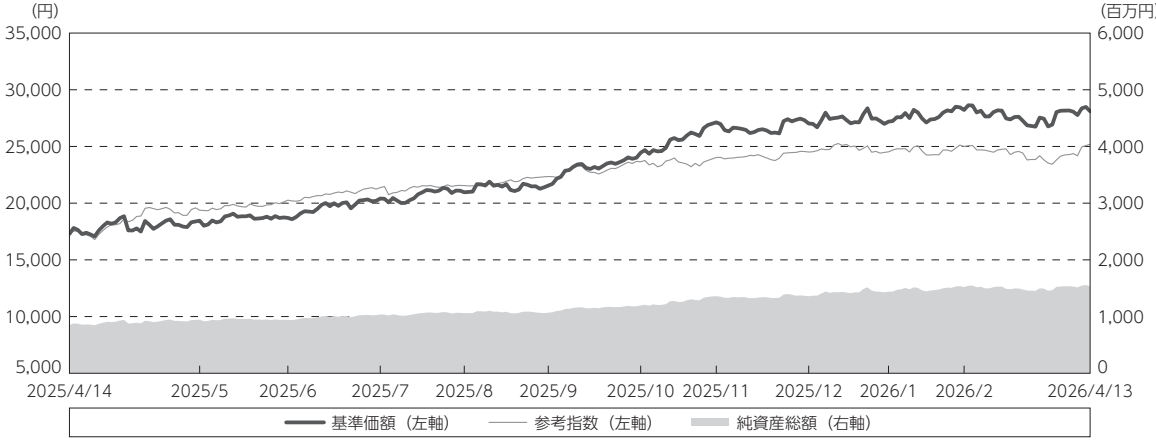
平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、「iTrustバイオ」は、このたび、第10期の決算を行いました。
当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、世界主要市場のバイオ医薬品関連企業の株式に投資することにより、信託財産の積極的な成長を図ることを目的としております。
当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1
お問い合わせ窓口
投資信託営業部
電話番号 03-3212-1805
受付時間：委託者の営業日の午前９時から午後５時まで
ホームページ：www.pictet.co.jp

運用経過

基準価額等の推移



期　首：17,286円
期　末：28,103円（既払分配金（税込み）：0円）
騰落率：　62.6%

（注）参考指数は、期首（2025年4月14日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
（注）参考指数は、MSCI世界株価指数（税引後配当込み）を委託者が円換算したものです。

基準価額の主な変動要因

【当期前半】

上昇↑・実質的に組入れているアイオニス・ファーマシューティカルズ（米国、バイオテクノロジー）、アルナイラム・ファーマシューティカルズ（米国、バイオテクノロジー）などのバイオ医薬品関連企業の株価が上昇したこと
上昇↑・円に対して米ドルが上昇したこと

【当期後半】

上昇↑・実質的に組入れているリジェネロン・ファーマシューティカルズ（米国、バイオテクノロジー）、ギリアド・サイエンシズ（米国、バイオテクノロジー）、モデルナ（米国、バイオテクノロジー）などのバイオ医薬品関連企業の株価が上昇したこと
上昇↑・円に対して米ドルが上昇したこと

1万口当たりの費用明細

(2025年4月15日～2026年4月13日)

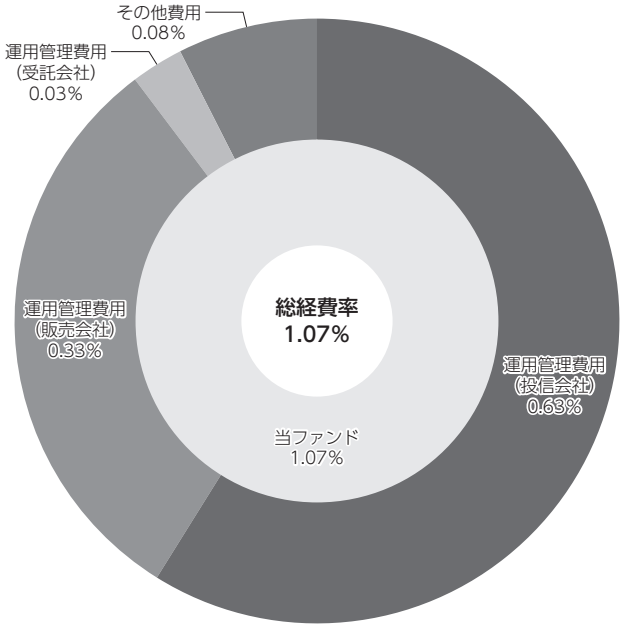
項目	当期 金額	当期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	230	0.987	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(146)	(0.625)	・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(77)	(0.329)	・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
(受託会社)	(8)	(0.033)	・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.003	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(1)	(0.003)	
(c) 有価証券取引税	2	0.007	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(2)	(0.007)	
(d) その他費用	18	0.078	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(4)	(0.016)	・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(8)	(0.036)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(6)	(0.026)	・その他は、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用その他信託事務の処理等に要する費用
合計	251	1.075	
期中の平均基準価額は、23,274円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

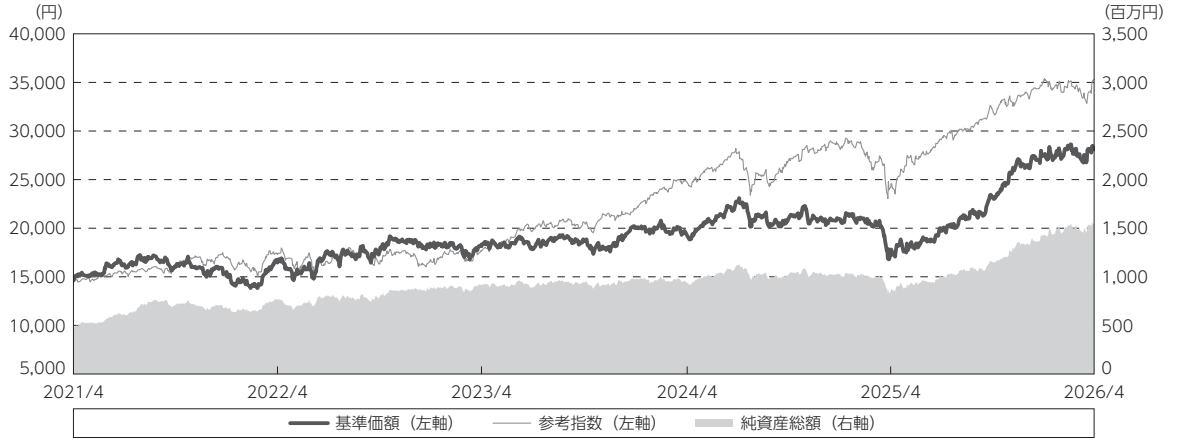
◯総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.07%です。



(注) 上記の費用は、「１万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
(注) 各比率は、年率換算した値です。
(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近５年間の基準価額等の推移（2021年4月13日～2026年4月13日）



（注）参考指数は、2021年４月13日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2021年４月13日決算日	2022年４月13日決算日	2023年４月13日決算日	2024年４月15日決算日	2025年４月14日決算日	2026年４月13日決算日
基準価額 (円)	14,608	16,462	18,137	19,231	17,286	28,103
期間分配金合計(税込み) (円)	－	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	－	12.7	10.2	6.0	△ 10.1	62.6
参考指数騰落率 (%)	－	18.4	1.9	40.2	△ 1.9	45.7
純資産総額 (百万円)	474	757	912	936	851	1,535

（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。
（注）参考指数は、MSCI世界株価指数（税引後配当込み）を委託者が円換算したものです。基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

MSCI世界株価指数は、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。
またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

投資環境

・バイオ医薬品関連株式市場は、期を通じてみると大きく上昇しました。期初の2025年４月中旬は、初旬に米国のトランプ米大統領が相互関税名目で世界各国に高率の関税を課す方針を示し、世界の株式市場が大混乱に陥った流れを受けて、下落して始まりました。しかし下旬以降は、米国が態度を一部軟化させ、米国と世界各国との間での貿易面での対立が和らぐとの見方が徐々に優勢となったことで反発しました。５月上旬には、トランプ米政権による薬価引き下げの大統領令を受けて再び下落しましたが、その後は規制当局による新薬の承認や有望な臨床試験結果の発表、活発なM&A（合併・買収）の動きを背景に上昇に転じました。その後も米国経済の底堅い推移、FRB（米連邦準備制度理事会）による利下げ見通し、AI（人工知能）関連の好材料を背景とした主力ハイテク株式の高成長への期待などから米国株式市場全般が堅調に推移する中、バイオ医薬品関連株式市場も好調な推移が続きました。さらに９月から10月初旬にかけては、大規模なM&Aが見られたことや、米国の大手製薬企業が薬価引き下げや関税の回避などで米国政府と合意に至り、先行きを巡る不透明感が後退したと見られたことで、一段高となりました。10月中旬から11月にかけては、FRBによる利下げの実施や、AI関連銘柄からの資金分散の動きに加え、９月末にファイザーと米国政府が薬価引き下げで合意に至ったことを受けて、同様の合意が拡大するとの期待から薬価を巡る政策面での不透明感が後退したこと、バイオ医薬品企業をターゲットとした大型のM&A案件が成立したこと、がん、肥満、希少疾患分野における良好な治験結果の発表などが好感され、バイオ医薬品関連株式市場の上昇要因となりました。12月は一部AI関連株に対する過熱感などが懸念材料となったものの、FRBの追加利下げやユーロ圏の経済成長見通しの上方修正などを背景に世界の株式市場は上昇しました。一方、バイオ医薬品関連株式は前月までの急上昇の反動もあり、小幅に下落しました。

2026年に入ると、１月から２月にかけては、米国で開催された大規模なヘルスケア・カンファレンスを通じて、新薬開発の進捗や規制当局との対話状況、新薬候補（パイプライン）の充実度などが概ね、前向きに評価され、バイオ医薬品株式は市場平均を上回るパフォーマンスとなりました。特に、業績の安定した大型のバイオ医薬品関連銘柄が再評価され、中小型銘柄に対して良好なパフォーマンスとなりました。３月は、イスラエルおよび米国によるイランへの攻撃を受けて中東情勢が緊迫化し、原油価格の上昇に伴うインフレ懸念や金融政策への警戒感から、世界株式市場は大きく調整しました。このような中、バイオ医薬品関連株式も下落しましたが、価格決定力の高さや成長見通し、M&A期待を背景に、相対的には市場平均よりも小幅な下落にとどまりました。期末にかけては、米国とイランの停戦交渉への期待、期限付き停戦やホルムズ海峡封鎖の一時解除などの動きを受けて上昇しました。

・為替市場では、期を通じてみると円安・米ドル高が進行しました。期初の2025年４月中旬においては、米国の関税政策を受けた世界経済の先行きに対する悲観的な見方から、円高・米ドル安が進行して始まりましたが、４月後半以降は、米国が態度を軟化させ、貿易摩擦激化への警戒感が後退したことで円安・米ドル高傾向に転じました。５月は、円安是正について日米協議が行われるとの観測や、米国の財政悪化への警戒感などで円高・米ドル安の推移となりました。６月以降は、FRBの利下げ観測や日米間の相互関税に係る合意を受けて円高・米ドル安となる場面もありましたが、米国株式市場の最高値更新や日本銀行の利上げ姿勢の後退を背景に円安・米ドル高傾向で推移しました。８月から９月にかけては、FRBの利下げ観測や米政府によるFRBの独立性侵害を巡る懸念が円高・米ドル安材料となった一方、積極財政派とみられる高市氏の自民党総裁選への出馬表明などが円安・米ドル高材料となり、もみ合う展開となりました。その後は、米国議会での予算不成立で政府機関が閉鎖されたことや債務増大への懸念などから米ドルの上値が一旦抑えられましたが、自民党総裁選での高市氏の勝利、

自民党と公明党の連立解消による政局の不透明感などを受けて円安・米ドル高が進行しました。10月以降は、米連邦議会での政府予算案の不成立で米国政府機関が閉鎖されたことなどから米ドルの上値が一旦抑えられましたが、自民党総裁選での高市氏の勝利で財政拡張政策への懸念、米国政府機関の閉鎖解除などを背景に、11月中旬にかけて円安・米ドル高が継続しました。11月後半からは、日本銀行の為替介入への警戒感や、FRBの利下げ観測の高まりなどから円高・米ドル安の動きとなる一方で、日本銀行が利上げを決定したものの、利上げペースや金利の到達点が不透明であったことなどから円安・米ドル高の動きもあり、12月下旬にかけてもみ合う推移となりました。2026年に入ると、日本の財政悪化懸念を背景に円安・米ドル高方向の圧力が続く一方で、為替介入への警戒感から円高方向への振れも見られ、上下に振れの大きい展開となりました。その後は、高市首相が追加利上げに難色を示したとの報道や、中東情勢の緊迫化を背景に原油や天然ガスなど資源価格が上昇し、景気後退やインフレ再燃への懸念が高まったことで、米国の利下げ姿勢が後退したことから円安・米ドル高が続き、期末にかけてはもみ合う動きとなりました。

当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドが主要投資対象とするピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券への投資比率を高位に維持してまいりました。実質的な外貨建資産につきましては原則として為替ヘッジを行いませんでした。

＜ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド＞

主に世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいりました。期末におけるESGを主要な要素として選定した銘柄の組入比率は、76.4%となりました。

当社および運用指図の権限の委託先におけるESGに関わる活動の詳細につきましては以下のリンク先をご覧ください。

https://www.pictet.co.jp/featured/esg-portal.html

◇国・地域別組入比率（当期末）

国・地域名	組入比率
米国	90.5%
フランス	3.2%
デンマーク	1.4%
ドイツ	1.3%
オランダ	0.8%
カナダ	0.8%
スイス	0.7%

◇業種別組入比率（当期末）

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	80.5%
医薬品	14.6%
ライフサイエンス関連	2.9%
ヘルスケア・サービス	0.7%

（注）組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

◇組入上位10銘柄（当期末）

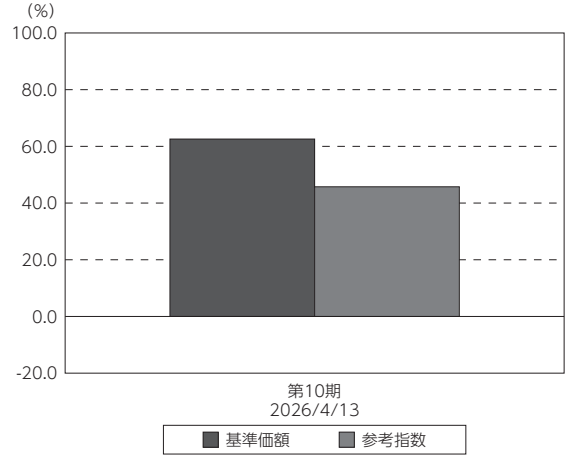
銘柄名	国名	業種名	組入比率
ギリアド・サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	8.0%
バーテックス・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	7.2%
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	7.2%
リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	6.5%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	3.3%
ヴィアトリス	米国	医薬品	3.2%
バイオジェン	米国	バイオテクノロジー	3.1%
ジャズ・ファーマシューティカルズ	米国	医薬品	3.0%
サノフィ（ADR）	フランス	医薬品	2.8%
モデルナ	米国	バイオテクノロジー	2.8%

（注）組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドでは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右のグラフは、当ファンドと参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。
（注）参考指数は、MSCI世界株価指数（税引後配当込み）を委託者が円換算したものです。

分配金

当期の収益分配は、見送りとさせていただきました。
なお、留保益については、元本部分と同一の運用を行います。

◆分配原資の内訳

（単位：円、１万口当たり、税込み）

項　　目	第10期 2025年４月15日～ 2026年４月13日
当期分配金	－
（対基準価額比率）	－％
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	18,102

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（1）投資環境

バイオ医薬品関連企業は、画期的な治療薬を提供し続けるものと予想され、相対的に高い利益成長が期待されます。また魅力的な新薬候補や高い技術力を求めて大手医薬品企業がバイオ医薬品関連企業を買収する動きは、中長期的に継続すると見られ、これは株価にとってプラス要因になると見ています。一方、イラン情勢など地政学リスクへの懸念や、それに伴う潜在的なインフレ圧力の高まりなどにより、株価の変動が大きくなる可能性には注意が必要と考えます。また、米国をはじめとした主要国の金融政策、マクロ経済の動向、米トランプ政権の政策などに加え、注目パイプラインの治験結果の発表、決算の内容なども、バイオ医薬品株式の株価に影響を与える可能性があります。

（2）投資方針

ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券への投資を通じて世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいります。
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

＜マザーファンド＞

世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいります。

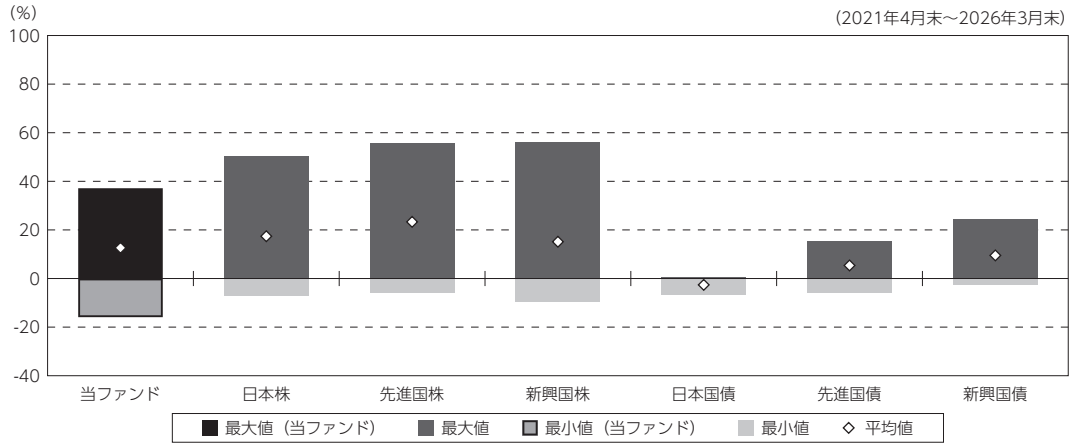
お知らせ

2026年４月１日付で、「一般社団法人投資信託協会」は「一般社団法人日本投資顧問業協会」と合併し、「一般社団法人資産運用業協会」に名称を変更したことに伴い、所要の約款変更を行いました。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2016年２月19日（当初設定日）から無期限です。	
運用方針	世界主要市場のバイオ医薬品関連企業の株式に投資することにより、信託財産の積極的な成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券
	マザーファンド	世界のバイオ医薬品関連企業の株式
運用方法	①主として、マザーファンド受益証券に投資します。 ②実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主な投資制限	当ファンド	①株式への実質投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	①株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	37.2	50.5	55.7	56.3	0.6	15.3	24.5
最小値	△ 15.9	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 6.9	△ 6.1	△ 2.7
平均値	12.6	17.4	23.3	15.1	△ 2.6	5.4	9.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
(注) 2021年４月から2026年３月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

○各資産クラスの指標

日 本 株　東証株価指数（TOPIX）(配当込み)
先進国株　MSCIコクサイ指数（税引前配当込み、円換算）
新興国株　MSCIエマージング・マーケット指数（税引前配当込み、円換算）
日本国債　NOMURA－BPI国債
先進国債　FTSE世界国債指数（除く日本、円換算）
新興国債　JPモルガンGBI－EMグローバル・ディバーシファイド（円換算）

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジをしない投資を想定して、ドルベースの各指数を委託者が円換算しております。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

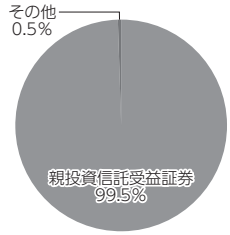
(2026年4月13日現在)

■組入上位ファンド

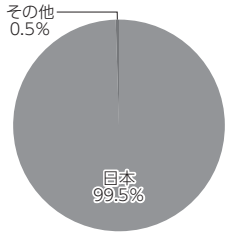
銘柄名	第10期末
	%
ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド	99.5
組入銘柄数	1銘柄

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

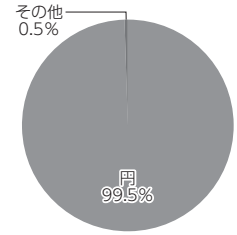
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
(注) その他にはコール・ローン等(日本・円)を含む場合があります。

純資産等

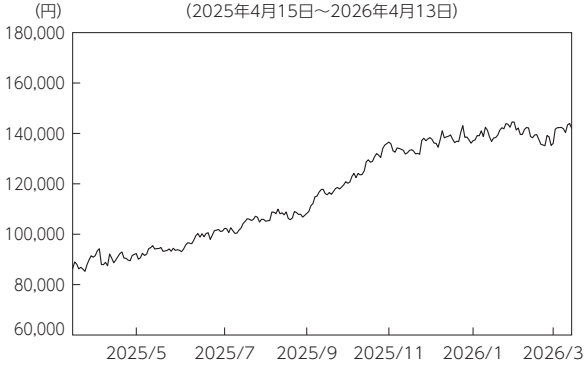
項目	第10期末
	2026年4月13日
純資産総額	1,535,274,214円
受益権総口数	546,306,939口
1万口当たり基準価額	28,103円

(注) 当期中における追加設定元本額は261,452,533円、同解約元本額は207,901,500円です。

組入上位ファンドの概要

ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド

■基準価額の推移



■１万口当たりの費用明細

(2025年４月15日～2026年４月13日)

項目	当期 金額	当期 比率
	円	%
(a) 売買委託手数料	3	0.002
(株式)	(3)	(0.002)
(b) 有価証券取引税	7	0.006
(株式)	(7)	(0.006)
(c) その他費用	26	0.022
(保管費用)	(18)	(0.016)
(その他)	(7)	(0.006)
合計	36	0.030
期中の平均基準価額は、117,040円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

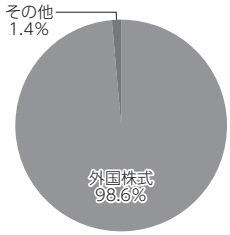
■組入上位10銘柄

(2026年４月13日現在)

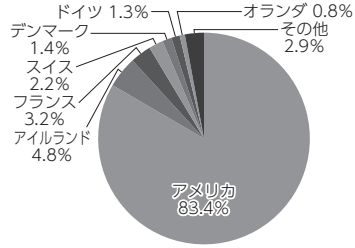
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	GILEAD SCIENCES INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	8.0
2	VERTEX PHARMACEUTICALS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	7.2
3	AMGEN INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	7.2
4	REGENERON PHARMACEUTICALS	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	6.5
5	INCYTE CORP	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	3.3
6	VIATRIS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	3.2
7	BIOGEN INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	3.1
8	JAZZ PHARMACEUTICALS PLC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アイルランド	3.0
9	SANOFI-ADR	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	フランス	2.8
10	MODERNA INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	2.8
組入銘柄数		65銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

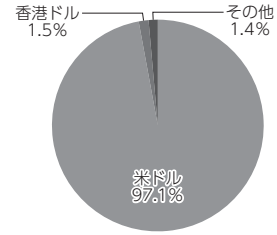
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
(注) その他にはコール・ローン等（日本・円）を含む場合があります。
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

指数に関して

○「代表的な資産クラスと騰落率の比較」に用いた指数について

■東証株価指数（TOPIX）（配当込み）：

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）に帰属します。JPXは、同指数の指数値およびそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。JPXは同指数の算出もしくは公表方法の変更、同指数の算出もしくは公表の停止または同指数の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

■MSCIコクサイ指数（税引前配当込み）：

MSCIコクサイ指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■MSCIエマージング・マーケット指数（税引前配当込み）：

MSCIエマージング・マーケット指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■NOMURA－BPI国債：

NOMURA－BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属しています。また同社は同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、当ファンドの運用成果に関して一切責任を負いません。

■FTSE世界国債指数（除く日本）：

FTSE世界国債指数（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券指数です。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

■JPモルガンGBI－EMグローバル・ディバーシファイド：

JPモルガンGBI－EMグローバル・ディバーシファイドは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的な指数です。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。